

授業科目	*在宅看護学				実務家教員担当科目	○					
単位	2.	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期				
担当教員	石井 美紀代										
授業概要	在宅療養をする人とその家族の自立と QOL 向上を目指した看護を実践するための基礎知識を講義する。内容は、在宅看護が必要とされる背景を理解したうえで、在宅療養者の多様性、不確実性という特徴から、在宅ケア・在宅看護が効果的に展開されるために必要な機能について学ぶ。さらに、医療・看護を取り巻く社会の変化に伴い、国の推進する地域包括ケアにおいて、看護に期待されている役割を考える。										
授業形態	講義	授業方法	対面講義								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅医療・在宅看護が推進される社会背景を説明できる。 2. 継続医療・継続看護について説明できる。 3. 在宅療養者の多様性と在宅看護の不確実性を理解できる。 4. 療養者と家族を支えるために多職種・多機関と連携する必要性と方法を説明できる。 5. 在宅療養に対して安全・安楽・自立を実践する看護の機能を説明できる。 6. 在宅看護における健康危機管理の内容と方法を説明できる。 										
理想的レベル	<p>標準的なレベルの知識、思考、関心、態度を修得した上で、これらをより詳細に表現できる。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅ケア、在宅介護に関する社会問題を調べ、自分なりの意見がもてる。 2. 対象に適した看護について、柔軟に創造できる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験	80%										
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物	20%				授業のワークシート 等						
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU21401J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
予習：教科書の該当箇所を読む										4	
復習：講義内容の復習											
授業計画											
第1回	<p>テーマ：在宅看護の概念と社会背景（1章）</p> <p>・在宅看護が推進される社会背景</p>										

	・在宅看護の 基本理念
第 2 回	テーマ：在宅看護の対象（2章） ・対象の多様性/家族支援 ・在宅療養の成立要件
第 3 回	テーマ：療養の場の移行に伴う看護（3章） ・継続医療/継続看護/入退院支援
第 4 回	テーマ：在宅看護におけるケアマネジメント（3章） ・介護保険におけるケアマネジャーの役割 ・ケースマネジメント/ケアマネジメント
第 5 回	テーマ：在宅療養での意思決定支援（1章・3章） ・在宅療養者の QOL ・人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）
第 6 回	テーマ：在宅における援助技術（7章） ・生活ケアと医療的ケア
第 7 回	テーマ：日常生活における安全管理（6章） ・在宅医療におけるリスクの特徴 ・家庭内で起きる事故とその予防
第 8 回	テーマ：在宅看護における危機管理（6章） ・災害に備える危機管理
第 9 回	テーマ：在宅看護における療養指導 ・訪問看護での患者指導
第 10 回	テーマ：訪問看護の制度（4章・5章） ・訪問看護ステーションの開設基準 ・訪問看護の対象と保険の種類
第 11 回	テーマ：慢性疾患療養者を支える在宅ケア（2章・4章） ・慢性疾患管理 ・生活不活発病予防
第 12 回	テーマ：認知症高齢者を支える在宅ケア（2章・4章） ・認知症ケアパス ・認知症を支える在宅看護
第 13 回	テーマ：医療的ケア児の在宅ケア（2章・4章） ・医療的ケア児の現状 ・小児の在宅療養支援
第 14 回	テーマ：在宅での終末期ケアと看取り（2章・4章） ・在宅医療の利点・欠点 ・在宅緩和ケアで提供される看護
第 15 回	在宅看護の展望（8章） ・在宅看護の動向と今後の発展 ・まとめ

テキスト	地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次の地域生活支援論、2年次の地域連携協働支援論、家族看護学 のテキストと講義資料 ・ その他、適宜、授業内で紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	<p>授業内の提出物は、提出後に講義の中で講評します。</p> <p>課題レポートは、在宅看護学実習のオリエンテーションで返却します。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>在宅看護学の対象は全ライフステージの療養者であることから、在宅看護を考えるには、基礎看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学での、既習の知識が必要です。特に、地域生活支援論、地域連携協働支援論、家族看護学で学んだことを使って考えることが多くあります。必要な知識を振り返りましょう。</p> <p>また、療養者のご自宅や環境に合わせた看護を考え創造します。考えること手間を惜しまないで受講してください。</p> <p>※授業の進行によっては、講義の順番を入れかえることがあります。</p>